

カラーユニバーサルデザイン

当事者のイニシアチブでバリアフリーを普及させる方策

バリアフリーを実現する過程では、配慮すべき対象となる当事者へのアンケートや聞き取り調査が行われることが多い。しかし調査者の側が結果を実際の施設や製品設計にどの程度反映されるかには保証がなく、当事者の側も実現可能性や優先順位を考慮しないで要望の言いつ放しに終わる場合が少なくない。結果として、当事者が真に満足できるようなバリアフリーがなかなか普及しないという問題が起きている。

カラーユニバーサルデザインは、図表・案内サイン・操作ボタン・表示ランプ・テレビ画面の情報など、色を使った情報伝達のバリアフリーである。色の見え方は人によって同じではなく、持って生まれた遺伝子の違いや、網膜やレンズの病気によって色の見え方が一般の人と大きく異なる人が、日本だけでも数百万人、世界には数億人いる。これらの人にも見やすいデザインを実現するには、微妙な色みの調整だけでなく、色以外のデザイン要素についても細かい配慮が必要になる。私たちは、科学的知見と調査に基づき、しかもそれぞれの製品や施設に特有な制約を考慮した具体的なデザイン改善法を提案するとともに、当事者自身による認証マーク制度を作ることによって、当事者の意向を十分に反映させることがデザインサイドにとって重要なインセンティブになる仕組みを作り上げた。施設デザインや気象情報など実際の例を紹介しながら、カラーユニバーサルデザインの普及の歩みを紹介する。

2012年 **6月25日** (月) 16:30~18:00

慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎2階大会議室

参加費：無料（学生の来場歓迎）

会場準備の都合上、塾外の方は事前申し込みをお願いいたします



講師：伊藤 啓氏

◇東京大学分子細胞生物学研究所准教授

1986年東京大学理学部物理学科卒業、1991年同理学系大学院修了、理学博士。独マインツ大学客員研究員、ERATO山元行動進化プロジェクト研究員、基礎生物学研究所助手を経て、2002年より現職。2004年、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構を設立、副理事長。専門：脳の分子神経生物学



REC for NS

research and education center for natural sciences



申し込みメールアドレス